

新たなアサリ増殖手法への取り組み

- 砕石を用いたアサリ増殖漁場造成試験 -

浅海干潟研究部 那須博史

はじめに

熊本県有明海沿岸のアサリ漁場では、アサリ増殖を目的として、海砂を用いた造成漁場が各地に造成され成果をあげてきた。しかし、近年、その材料となる海砂採取の周辺海域に与える影響が懸念され、採取が困難となってきた。

そこで、当センターでは新たな覆砂材を検討するために、網田漁協と共同で砕石を用いたアサリ増殖場造成試験を平成15年度から開始した。今回の報告では、その試験の実施過程及び調査結果について報告する。

なお、試験区の構造、配置及び造成方法については、網田漁協アサリ部会と検討を行い決定した。

試験の概要

1. 試験実施場所
宇土市長浜地先
2. 使用した砕石及び量
直径約4cmの切り込み砕石約70トン
3. 試験区の構造
砕石を幅5m×長さ20m×厚さ約15cmになるように敷設し、15m間隔で3列配置した(図1)。
4. 試験区の配置
冬場の北西風による波を和らげるために、東西方向に垂直になるように配置した。

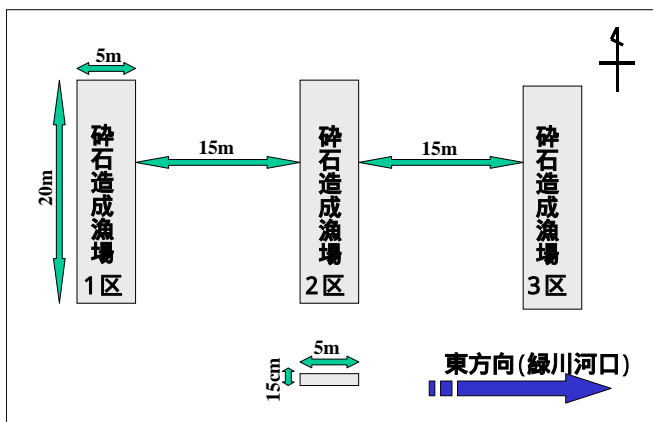


図1 砕石を用いたアサリ造成漁場概略図

試験結果

平成16年5月の調査から、前年秋に着底したと考えられる殻長1~4mmの稚貝が多数確認できるようになり、砕石区では、平均2,650個/m²、最高で5,450個/m²の分布が確認された。

このアサリ稚貝は、その後減少しながらも順調に生育したが、8月下旬から9月上旬に通過した台風16号、18号の影響により砕石が飛び散る被害を受け、11月26日に実施した調査では、砕石区の平均分布密度が30個/m²、最高で300個/m²の分布となっている(図2)。

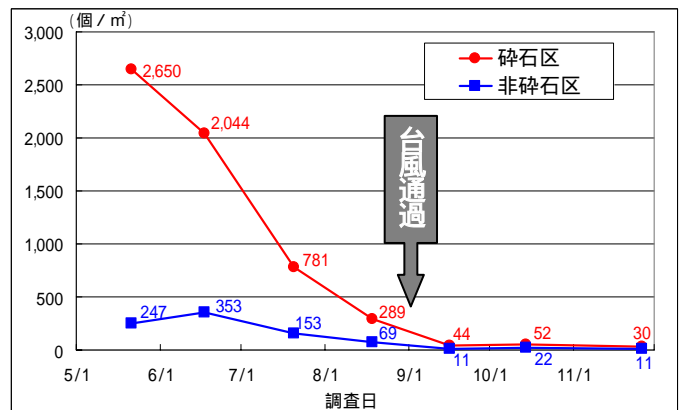


図2 アサリ分布状況調査結果

今後の検討課題

砕石を用いたアサリ造成漁場は、アサリ初期稚貝の生育する場所としては、非常に有効であることが解った。しかし、その後生育する場所としてより効果を上げるためには、砕石の大きさ、漁場造成の構造及び配置(砕石の厚さ、配置等)を更に検討し、特にアサリが成長する場となる空隙をどう作るかが重要となると考えられた。

おわりに

本試験を行うにあたり、快く試験実施場所を提供して頂いた網田漁協、試験の計画から試験区の造成に至るまで無償で御協力頂いた網田漁協アサリ部会(中村光秋会長)の方々に厚くお礼申し上げます。